

専門分野 老年看護学	科目名：高齢者看護学概論	講師：専任教員	1 単位 15 時間 (1 年次後期)
学習目標	1. 高齢者の身体的・社会的・精神的特徴とその生活について理解できる。 2. 社会構造の変化と保健医療福祉制度の動向を理解できる。 3. 老年期における健康課題と看護の役割について理解できる。		
回数	主題	主な学習内容	講義形態
1	1. ライフサイクルからの老年期の理解	1) 老年期の定義 (1) 超高齢社会の現況と将来像 (2) 高齢者の健康の捉え方・老年期の位置づけ 2) 加齢と老化 3) 老年期の発達課題 エリクソン、ペック、バトラー、ハヴィーガースト	講義
2	2. 生活史からの高齢者の理解	1) 生活史から見た高齢者 高齢者の生きてきた時代 2) 高齢者の多様性 人生と経験・価値観の多様性	講義
3	3. 加齢に伴う変化 4. 老年期の健康課題	1) 加齢に伴う変化の特徴 2) 身体的変化と健康課題 神経系、運動器、感覚器、循環器、造血器・免疫系、呼吸器、消化器、代謝系、泌尿器、内分泌、生殖器、性機能 3) セルフケア フレイル 4) 精神的変化と健康課題 認知機能、心理的機能、スピリチュアリティ	講義
4	5. 高齢者の生活の変化 6. 高齢者と家族 7. 高齢者と QOL 8. 老年看護における倫理的課題	1) 社会的変化と健康課題 役割の変化 (1) 生活の場、住宅環境 (2) 生活リズムと生活習慣 (3) 役割と生活活動、余暇活動 (4) 就労・雇用 (5) 収入・生計 2) 家族構成の変化 3) 家族形態の変化 4) 高齢者と家族の人間関係 5) 家族と介護 1) 老年者の尊厳と権利 (1) ノーマライゼーション (2) 自立支援 (3) フォーマルサービス・インフォーマルサポート 2) QOL の保障・権利擁護 (1) 虐待 (2) 身体拘束・抑制 (3) 地域福祉権利擁護事業・成年後見制度	
5	9. 高齢者の保健・医療・福祉の動向	1) 超高齢社会における保健医療福祉の動向 1) 人口学指標 2) 健康指標 3) 老人保健法 4) 老人福祉法 5) 老人医療制度 長寿医療制度 6) 年金制度 7) 介護保険 8) 医療費の助成制度の活用 9) 保健医療福祉施設	講義

6	10. 健康増進・疾病予防に伴う施策や取り組み	1) 健康状態が急速に変化する対象の身体的・心理的・社会的特徴 (1) 高齢者の健康状態と疾患の特徴、死亡率と死因 2) 多職種連携と看護活動の場の多様化 (1) 高齢者の生活と健康を支える多様な場 (2) 看護職の活動の拡大と専門化	講義
	11. 生活(療養)の場に応じた看護(病院・施設・在宅等)		
7	12. 老年看護の役割	1) 経過に応じた看護 2) 治療に応じた看護 3) 老年看護を支える看護理論	講義
7.5	終講時試験	単位認定試験	試験
履修上の留意点		1. すべての時間は講義形式を基本とするが、学生の学びを促すために適宜グループワークを取り入れる。 2. 授業者が、学習内容にそってグループワークやレポート課題を提示する。 3. 講義にはパワーポイント・DVD等映像教材を用いる。	
1) テキスト 2) 参考書		1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護病態・疾病 医学書院 2) 国民衛生の動向 一般財団法人 厚生労働統計協会	
評価方法		筆記試験	

専門分野 老年看護学	科目名：高齢者の健康な生活の 保持・増進に向けた看護	講師：専任教員 臨床看護師 臨床看護師 臨床看護師	1 単位 30 時間 (2 年次前期)
学習目標	1. 高齢者の加齢に伴う健康状態や日常生活能力をアセスメントする方法が理解できる 2. 高齢者とその家族の健康・自立を支えるための基礎的援助方法を理解できる 3. 加齢に伴う症状に対する援助方法について理解できる 4. 高齢者とその家族の自立を支える日常生活の援助が理解できる		
回数	主題	主な学習内容	講義形態
1	1. 高齢者への 基礎的援助	高齢者疑似体験（校内にて日常生活行動）	講義・GW
2		1) 高齢者の観察：生活機能アセスメント視点 2) コミュニケーション(感覚機能低下・認知力低下) 3) 加齢による身体変化への援助	講義
3	2. 自立を支える 日常生活の援助 3. 日常生活能力 と家族介護力の アセスメントと 援助の方法	1) 食生活と栄養 (1) 食生活と栄養評価機能・水分出納のアセスメント (2) 食事前・中・後のケア 義歯の取り扱い (3) 摂食・嚥下機能障害に対するケア (4) 脱水症・低栄養 (5) NST チーム	講義 演習
4		【演習】食事 高齢者への摂食ケアと摂食・嚥下機能障害に対する誤嚥予防・嚥下訓練の実際・義歯の取り扱い	
5			
6		2) 排泄 (1) 高齢者の尊厳を守る排泄ケア (2) 泌尿器・生殖機能・排泄機能アセスメント (排尿機能・尿失禁、排便機能・便秘・下痢) (3) 高齢者への基本的な排泄援助方法	
7		【演習】排泄 排尿機能を維持するためのケア(骨盤底筋体操、膀胱訓練) オムツ交換とフィッティング	
8		3) 活動・運動とレクリエーション (1) 循環・呼吸・運動機能アセスメント (2) 転倒予防と看護(薬剤影響) (3) サルコペニア・ロコモティブシンドローム・廃用症候群予防と看護 (4) 社会活動参加促進へ向けての現状 4) 休息と睡眠 (1) 生活リズム・生活習慣の意義 (2) ホルモン分泌機能と生活リズム変調のアセスメント (3) 生活リズムを整える援助 (4) 睡眠障害のある高齢者への援助	
9		【演習】活動 補助具を使用した移乗・移動介助の実際 転倒予防の環境調整の実際	

10		5) 清潔・身だしなみ (1) 清潔の意義 (2) 生活習慣と皮膚・免疫機能アセスメント (3) 清潔援助・衣生活援助	
11		【演習】清潔・身だしなみ スキンケア予防・褥瘡予防	
12		6) 性生活 (1) 高齢者のセクシュアリティ-について (2) 高齢者のセクシュアリティ対応・配慮 7) 住環境 8) 対人関係	講義
13	4. 高齢者に多い事故への対応	1) 転倒転落 2) 熱傷	講義
		1) 窒息 2) 感染	講義
14	5. 加齢に伴う症状と看護	1) 痛み 2) 掻痒感 3) 不眠 4) 痺れ 5) 冷え 6) 便秘・尿失禁 7) 振戦 8) 脱水 9) うつ 10) 難聴 11) 視力障害	講義
15	終講時試験	筆記試験・まとめ	試験
履修上の留意点		1. 講義形式を基本とするが、学生の学びを促すために適宜グループワークを取り入れる。 2. 授業者が、学習内容にそってグループワークやレポート課題を提示する。 3. 講義にはパワーポイントとDVD映像教材を用いる。	
1) テキスト名 2) 参考書		1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 老年看護疾病・病態 医学書院 1) 看護実践のための根拠がわかる老年看護技術 メヂカルフレンド社 1) 老年看護学2 健康障害をもつ高齢者の看護 メヂカルフレンド社 2) 高木永子監修 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 学研 2) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[12] 皮膚 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[14] 耳鼻咽喉頭 医学書院	
評価方法		1. 筆記試験 2. レポート	

専門分野 老年看護学	科目名：健康障害のある 高齢者の看護	講師：臨床看護師 臨床看護師 臨床看護師 臨床看護師 臨床看護師	1 単位 30 時間 (2 年次前期)
学習目標	1. 高齢者の健康障害の特徴が理解できる 2. 治療を受ける高齢者とその家族への看護が理解できる 3. 高齢者に特徴的な疾患について家族を含めた看護を理解する。		
回数	主題	主な学習内容	講義形態
1	1. 健康障害のある 高齢者の特徴	1) 高齢者に起こりやすい疾患の特徴 2) 高齢者に多く見られる症状と現れ方 3) 高齢者の健康のアセスメントと観察の視点	講義
2			
3	2. 寝たきりの防 止と自立支援 3. 身体可動性障 害の高齢者の看護	1) 持てる力(患者の強み・できること)に目を向けた支援 2) 生活と自己管理の調整 3) 身体可動性障害のある高齢者の看護 (1) 筋力・関節可動域保持の看護 (2) 転倒予防の看護 (3) フレイル予防の看護	講義
4			
5 6 7 8	4. 高齢者特有の 疾患と看護	1)骨粗鬆症 2)大腿骨頸部骨折 3)白内障 4)前立腺肥大症 5)脳梗塞・脳出血 6)パーキンソン病 7)誤嚥性肺炎 8)疥癬	講義
9	5. 受療形態に応 じた看護	1)外来受診時の看護 2)検査時の看護 3)入院時の看護 4)退院時の看護 (1)退院支援における看護の役割(2) 退院調整・療養生活を支える看護活動	講義
10	6. 治療を受ける 高齢者の看護	1)経過に応じた看護 2)手術療法時の看護 3)リハビリテーション時の看護 (1)高齢者のリハビリテーション(2)活動耐性低下(3)転倒リスク (4)リハビリテーション意欲への支援 4)薬物療法時の看護 (1)高齢者と薬	講義
11			
12			
13	7. 終末期の家族 のニーズに充足し た関り(予期悲嘆、 グリーフケア等)	1)終末期の看取りの看護の実際 (1) デスカンファレンス ①高齢者の死生観②家族へのグリーフケア (2) エンドオブライフケアとは ①意思決定への支援(ACP) 2) 看取りの場(緩和ケア病棟、住宅)	講義
14			
15	単位認定試験	筆記試験	試験
履修上の留意点		1. 講義形式を基本とするが、学生の学びを促すために適宜グループワークを取り入れる。 2. 授業者が学習内容にそってグループワークやレポート課題を提示する。 3. 講義にはパワーポイントと適宜 DVD を用いる。	
1) テキスト名 2) 参考書		1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ老年看護学 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ老年看護 病態・疾患論 医学書院 2) 看護実践のための根拠がわかる老年看護技術 メヂカルフレンド社	
評価方法		1. 筆記試験	

専門分野 老年看護学	科目名：高齢者看護学演習	講師： 専任教員	1 単位 30 時間 (2 年次前期)
学習目標	1. 高齢者を対象とした看護過程の展開ができる 2. 高齢者およびその家族に必要な看護技術を習得できる		
回数	主題	主な学習内容	講義形態
1 2 3	1. 看護過程展開 ①情報収集・ アセスメント	看護展開に必要な基盤となる考え方 1) 生活機能という考え方 2) 生活行動モデル 【事例紹介 回復期：大腿骨頸部骨折】 高齢者の生活機能と今後の生活を見据えた情報収集・アセスメント	講義 演習
4	1. 看護過程展開 ②関連図	病態と生活機能関連図 1) 疾患の病態生理・治療と加齢に伴う変化 2) 疾患とその看護	
5 6	1. 看護過程展開 ③看護診断の 明確化・目票設定	目標志向型思考の「看護の焦点」 1) 高齢者に特徴的な健康問題・看護診断の関連 2) 高齢者の長期目標・短期目標設定	
7 8 9 10	1. 看護過程展開 ④看護計画立 案・実施・評価	1) 高齢者が望む生活を踏まえた看護評価の必要性 2) 高齢者の退院支援 ・退院支援スクリーニング	講義 演習
11 12 13 14	2. 看護過程展開 の実際	指導技術(個別) 1) 片麻痺患者の移動 2) 良肢位 3) 義歯の取り扱い	演習
		2) 指導技術(個別) 片麻痺患者の移動 良肢位 義歯の取り扱い	演習
15	まとめ	老年看護の思考・実践の展開のまとめ	講義 まとめ
履修上の留意点		1. 講義形式を基本とするが、学生の学びを促すために適宜グループワークを取り入れる。授業者が学習内容にそってグループワークやレポート課題を提示する。 2. 講義にはパワーポイントと DVD を用いる。 3. 老年看護学の各科目を土台に学習していくため、必要時予習課題を提示する。また高齢者を対象にした演習では状況判断・実施・評価を行う。基礎看護技術及び高齢者の生活援助技術の復習を行うこと。	
1) テキスト名 2) 参考書		1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 1) 看護実践のための根拠がわかる老年看護技術 メヂカルフレンド社 2) 高木永子監修 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 学研	
評価方法		課題レポート評価	